

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 インターカルト日本語学校

1 事業の趣旨・目的

近年、日本に在留する外国人は増加の一途をたどっており、国内における日本語教育の対象となる外国人は、留学生、研修生などのほかに、定住者や日本人の配偶者などの日常生活を送る上で必要な日本語を学習する者が増加している。平成20年度の文化庁「外国人に対する日本語教育の現状について」の調査によると、その教師数において、ボランティア等の数が16,065人(51.9%)と最も多くなっており、それら教員の多くは前述の定住者や日本人の配偶者といった地域における日本語学習者への教授担当者であると思われる。

そのような現状の中、東京都台東区に位置する当校は、いわゆる外国人集住地区ではないものの、区の全人口の7%近くを外国人が占め、特に小中学校等の公教育においての外国人に対する日本語教育は決して十分ではないという現状が事前のインタビュー調査によって明らかになった。

台東区に移転してきたのは平成20年4月とまだ日が浅い当校ではあるが、30余年にわたり行ってきた外国人留学生への日本語教育と日本語教師の養成という実績を、新天地でなんとか生かせないものかと考えた結果が、この講座の開講へとつながった。すでにボランティアとして日本語指導にあたっている方たちが、実践的な指導能力を身につけるために、各技能別に様々な角度から指導法を学び、スキルアップを図るとするのがこの講座の趣旨であり、目的である。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2009年 6/15 17:30～ 19:00	インターカルト日本語学校	加藤早苗 筒井由美子 萩原秀樹 鈴木節子 谷口真理	当校としてできること ボランティア	文化庁の委託事業の意義を踏まえ、ボランティアが何を学びたいかのアンケート結果を見ながら、当校として何ができるか、話し合いを行った。
2009年 6/25	インターカルト日本語学校	加藤早苗 筒井由美子	講座の内容 講師の選定	前回の話し合いを踏まえて、講座の内容と講師依

17:30 ~ 19:00	語学校	萩原秀樹 鈴木節子 谷口真理	募集方法	頼の確認を行う。 今後、募集をどのように 行うかの話し合いを行っ た。
2009年 9/25 18:00 ~ 19:00	インターカ ルト日本 語学校	加藤早苗 筒井由美子 萩原秀樹 鈴木節子 谷口真理	開講前の最終的な打ちわ せ	受講生に事前に送ったア ンケートを基に、受講の 背景を確認。各講師に連 絡する。
20年 1/25 17:30 ~ 19:00	インターカ ルト日本 語学校	加藤早苗 筒井由美子 萩原秀樹 沼田宏 鈴木節子 谷口真理	講座の状況報告 今後に向けての話し合い	講座毎に行ってアンケー トを基に、講座の反省を 行う。当校として、今後引 き続き何ができることを 再確認した。

【写真】



3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 現職指導者のための実践的研修
- (2) 研修の目標
 - 1.より実践的な指導能力を身に付けるために、各技能別に様々な角度から幅広い指導法を学ぶ。
 - 2.学習者の母語に触れることによって、対象学習者に対する理解を深る。
 3. 大人と子供の教え方の違いを学ぶ。

- (3) 受講者の総数 27 人
- (4) 開催回数(回数) 3 時間 (10 回)
- (5) 参加対象者の要件 原則として2年以上のボランティアとしての日本語指導経験を有する者
- (6) 受講者の募集方法 ・チラシ作成 ・インターカルト日本語学校 HP 掲載
・リタイアメントジャーナル紙募集案内掲載
・台東区、墨田区、文京区、荒川区地域振興課協力依頼
- (7) 研修会場
ア 講義 インターカルト日本語学校 601 教室
イ 実習
- (8) 使用した教材・リソース 担当講師が作成したプリント、パワーポイント、講師紹介書籍、参考書、テキスト

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10/3(土) 13:00～16:00	外国人から見た日本語の特徴・教えることの喜び	三鷹国際交流協会副理事 ルーテル大学教授 ジャン.E.フレゲンス	26名
10/10(土) 13:00～16:00	教え方実践編 Workshop コミュニケーション能力 人間関係作りを促す教室活動	インターカルト日本語学校専 任講師 萩原秀樹	21名
10/17(土) 13:00～16:00	教え方実践編 Workshop 国語文法ではない外国語としての日本語文法〈1〉	インターカルト日本語学校非 常勤講師 齋藤 美幸	26名
10/24(土) 13:00～16:00	子どもたちが楽しく日本語を学ぶために—大人と子どもの教え方の違いは—	千葉県教育委員会委嘱研究 員・相談員 井上 恵子	22名
11/7(土) 13:00～16:00	教え方実践編 Workshop 漢字の指導方法—漢字はおもしろい！漢字は便利！—	インターカルト日本語学校専 任講師 神本令子	21名
11/14(土) 13:00～16:00	教え方実践編 Workshop 発音指導方法—日本語らしいリズムとイントネーションで！—	インターカルト日本語学校非 常勤講師 喜多民子	18名

11/21(土) 13:00～16:00	教え方実践編 Workshop 表 現指導法	インターカルト日本語学校非 常勤講師 宮島京子	21 名
11/28(土) 13:00～16:00	教え方実践編 Workshop 国語文法ではない外国語とし ての日本語文法 〈2〉	インターカルト日本語学校非 常勤講師 齋藤 美幸	20 名
12/5(土) 13:00～16:00	学習者の身になって考える 直接法で学ぶ 韓国語	インターカルト日本語学校日 本語教員養成研究所非常勤 講師 李和静	21 名
12/12(土) 13:00～16:00	どんな人にどんな指導をしたら いい？	インターカルト日本語学校長 筒井由美子	18 名

○講義実施日：2009年10月3日（土）

外国人から見た日本語の特徴・教える喜び：報告

講師：ジャン・E・プレゲンス

Talk for Teachers

1. My own history--Today is almost my Japanese Birthday

Came in 1977; knew no Japanese ("kiotsukete")

Studied--Television--Yakitoriya--Sento.Stagesofunderstanding--Train
announcements/sermons/conversations

Wanted to read--learned only romaji, taught myself hiragana and katakana

Began working at Sony six years to the day I came. How much I learned--especially
register.

2. How do we learn languages? (Chart with CLP)

Difference between 1st and 2nd languages

Chunking

Fossilization

3. Characteristics of Japanese

Pronunciation

Vocabulary

Grammar

Difficulties with the skills of reading and writing

Writing system using all 3 orthographies

High context vs. Low context-foreigners use too many words

4. Teaching points

- a. Speech Acts (copy)
- b. Formulaic expressions--Chunking

5. PR for Bunkei Jiten

1) 自分の日本語との出会い。言語理解の進歩は階段のようで、突然次ぎのわかるレベルに達する。

2) 第一言語と第二言語習得の違い。第一言語(母語)は単語一つ一つではなくて、チャンク(固まり)のように、いくつかの単語を一つのものとして習得する。挨拶はその例。しかし、第二言語の場合は間違いが化石のように固くのこって、なかなかおらない、正しくならない傾向がある。言語は若いほど習得しやすく、しかし、完全に忘れるおそれもある。中国残留孤児はその例。

3) 日本語の特徴。発音はそれほど難しくないが、母音をのばす、のばさないがむずかしい。主人と囚人のちがいがその例。日本語は語彙が豊富で、敬語の使い分けもむずかしい。文字は大変で、読み書きができるのは大変むずかしい。漢字を理解しないと文章がよめないし、いつまでも日本語の”こども”でいる。

日本語はコンテキストの高い言語で、物事のいわないことがある。たとえば、”例のこと”と”あれは・・・”のような会話。

4) 教授法について。Q&A のかたちで、大人とこどもを教える違い。スピーチアクト(話の趣旨)のリスト。これらは挨拶、お礼、謝罪、など。日本語には決まり文句(Formulaic Expressions)がおおくあり、これを覚えるとべんり。それと、頻繁に使う表現もおすすめ。例えば、”どうも”は部屋にはいるとき、出る時、電話などはばひろくつかわれています。

5) 日本語文型辞典の紹介。

○講義実施日:2009年10月10日(土)

教え方実践編 Workshop

コミュニケーション能力 ー人間関係作りを促す教室活動ー:報告

講師:萩原秀樹

狙い:学習者に言語知識を伝え、運用力を身につけてもらう前提として必要なひとつが、指導者自身の良好な人間関係を構築する力ではないでしょうか。指導者との信頼関係なくして、学習者の有効な言語習得は進まないと考えます。ここでは、楽しみながら全員が参加できる言語的な活動や軽い身体運動、さらに非言語的な活動を通して、和やかな人間関係を自然に作るヒントを体験いただけたらと思います。

実際場面では1対1が多く、多人数のグループ活動や全体の教室活動は少ないかもしれませんが、現場で適宜アレンジしていただき、オリジナル活動も開発をしていただければと思います。

I

- ①ペンネーム作り
- ②握手(身体接触・協働)
- ③バースデーサークル(非言語・身体活動・協働・一体感)
- ④「私のペンネーム」(開示・傾聴)
- ⑤「私のしたいこと・希望」(開示・自己肯定感・受容・傾聴)
- ⑥他者紹介(信頼感・傾聴)
- ⑦サイコロトーク(開示・傾聴・一体感)
- ⑧トラストウォーク(身体接触・非言語・信頼・感覚覚醒)

【ミニ・シェアリング】

II

- ⑨偏愛マップ(開示・受容・振り返り・傾聴)
- ⑩「心の色」(描画・非言語・開示・受容)

【ミニ・シェアリング】

III

解説、Q&A

- ・教える／教えられるの関係だけではない。私たちは、すぐに教えたがる、話したがる、説明したがることはないだろうか。
- ・まず、こちらから開示するつもりがいいのでは。
- ・話したがるらないこと。聞く(聴く)ことの重要性。
- ・何よりも教室環境。良好な雰囲気、関係作りが大切ではないか。信頼関係がないと、前向きに学習もできないことが多い。

【参考文献】紹介

國分康孝監修(1999)『エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集』図書文化社
中村律子・宮崎妙子ほか(2005)『人と人をつなぐ 日本語クラスアクティビティ 50』アスク ほか

○講義実施日:2009年10月17日(土)

教え方実践編 Workshop

国語文法ではない外国語としての日本語文法 〈1〉:報告

講師 齋藤 美幸

1. 日本語の文法的な特徴を説明
 1. 話者の視点
 - ・指導形態
 - ・できるようになるには
 - ・私が授業で気をつけていること
 2. 「～は…」主語と主題
 3. 基本構文:名詞文 形容詞文 動詞文
 4. 形容詞:な形容詞 い形容詞 属性か感情か 活用の注意点
 5. 動詞:グループ分け 活用の種類と注意点

2. 学習者の質問、誤用の具体例を提示
このような間違いが起きないようにするための留意点

3. 実際の教室活動の例示と実践
「こそあど」の教え方
「なにが好きですか。」の教え方

4. 板書の注意点
構文の示し方の例

○講義実施日:2009年10月24日(土)

子どもたちが楽しく日本語を学ぶために —大人と子どもの教え方の違いは—:報告

講師 井上 恵子

1. 講義内容
 - (1)日本語指導が必要な児童生徒の現状
 - ・児童生徒数 28,575人

- ・母語別 ①ポルトガル語、②中国語、③スペイン語、④フィリピン語
- ・来日の理由 ①父母の日本留学・勤務、②父母の国際結婚、③父母の日本での就職
④中国・ロシアから、⑤難民

(2) 問題点

- ①学校制度・学校生活の違い ②親の都合で来日→学習意欲が見られない
- ③日本の生活(学校)に対する不適応・過剰適応
- ④授業についていけない等→不登校・退学
- ⑤経済問題・アルバイト・ひきこもり等→不就学
- ⑥日常会話ができてても授業についていけない
- ⑦日本語力不足→進学・就職が難しい
- ⑧母語を忘れる→親とのコミュニケーションがとれない ⑨アイデンティティー

(3) 大人と子どもの教え方の違いは

- ・子どもへの日本語指導(日本語学習+教科学習)

↓

適応のための日本語+教科対応のための日本語

(4) 指導内容・方法

- ・場面(テーマ)、語彙、漢字、文型、発問、活動、集中時間

(5) 日本語指導と国語指導の違い

- ・日本語指導＝第2言語教育
- ・日本語指導・・・日本語を母語としない子どもに対する指導
- 国語指導・・・日本語を母語とする子どもに日本語を母語とする教師が教える指導

(6) 直接指導法と間接指導法

(7) 臨界期前後で指導法を変えて

- ・臨界期・・・母語になりうる言語習得の時期(10歳頃)
- 前・・・日本語が第1言語になりやすい
- 後・・・母語への置き換えややさしい日本語へのかみくだき

(8) JSLカリキュラム

- ・日本語の初期段階から教科学習へつながる段階のためのカリキュラム
- 「トピック型」、「教科志向型」

(9) リライト教材

- ・教科書本文を子どもの日本語力に対応させて書きかえた教材
- ・ワーク「算数の文章題をリライトしよう」

(10) 「聞く・話す・読む・書く」の指導

- ・4技能を組み入れて、繰り返し何度も聞かせて、能力に応じて段階的に
- ・ワーク「じゅんばんのはなびら・でんごんおえかき」

(11) 「音声」の指導

- ・母語の干渉、言葉遊びや歌を使って、間違えやすい発音、音の高低
- ・ワーク「三角じんとり・森のくまさん」

(12)「文字・表記」の指導

- ・文字カード・絵・ゲーム等、書き順の原則、漢字はまとめて、違いをはっきり
仮名遣いの基本的な規則、振り仮名の書き方
- ・ワーク「ことばの花・漢字で算数」

(13)「語彙」の指導

- ・言葉遊び・言葉集め・歌等、イラスト・動作化、辞書の引き方
- ・ワーク「ことばのかいだん・ことばのビンゴ」

(14)「文法」の指導

- ・具体的に場面設定、イラスト・品詞カード・動作・ゲーム・まとめのワークシート
- ・ワーク「にほんごすごろく・十人のインディアン」

(15)日本語指導資料

- ・市販
- ・教育委員会等作成
- ・ダウンロードして使える指導資料
- ◎まとめ(5つのキー)
- ①一人一人に合わせて
- ②日本語の時間は言葉の整理の時間
- ③いろいろな活動を通して
- ④日本語で自分の気持ちが表現できるように
- ⑤「互いに認め合い、共に生きていこう」とする気持ちが持てるように

○講義実施日:2009年11月7日(土)

教え方実践編 漢字の指導方法 Workshop —漢字はおもしろい！漢字は便利！—:報告
講師 神本令子

- ・漢字は便利 ← 漢字の表意性
例:飛蚊症／無影灯
- ・「象形」「会意」を活用しよう。→ 字義を知るために

- ・「形声」を活用しよう。→ 字音を知るために
常用漢字の60%が「形声文字」

(字音)応用できる読みと特別な読み →整理して教える→学習者に面倒くさいと思われ
ないために

熟語の音変化

①連濁

訓読み熟語・・・するのが普通

音読み熟語・・・することがある(どんな場合か)

②母音交替

③促音便

④連声

○講義実施日:2009年11月14日(土)

教え方実践編 発音指導方法 Workshop —日本語らしいリズムとイントネーションで!—:報告

講師 喜多民子

1. 発音って何?
 2. 発音は大切?
 3. 発音で困っていること、考えていること
 4. 発音のコツをつかむ
 - ・いろいろな国の言葉を聞いてみよう → 何がわかる?
 - ・日本語母語話者でない人の日本語を聞いてみよう → 何がわかる?
 - ・日本語学習者の日本語を聞いてみよう → どこが不自然?
どこを直したら、日本語らしくなる?
 - ・日本語らしいリズムで話すために → どこに気をつけたらいいか。練習方法いろいろ。
 - ・発音はどのように作られる?
 - ・苦手な音を出せるようにする方法を考えてみよう
- 1) 言語にはその言語特有の音声的特徴があること、外国語を話すとき、だれもが母語のリズムとアクセントで話してしまうことをテープによって確認。日本語のリズムで話すときのコツとして特殊音を1泊取って発音することが重要であることを実験的に確認。
- 2) 日本語母語話者以外のほとんどの人が特殊音をきちんと発音できないことを踏まえ、その練習方法を受講者も交えて出し合う。
- 3) 音はどのように作られるかを簡単に講義し、日本語学習者が苦手とする音をどのようにしたら、発音することができるか、理論に適い、且つ実際にできそうな方法を紹介する。

○講義実施日:2009年11月14日(土)

教え方実践編 表現指導方法 Workshop :報告

講師 宮島京子

■ 目的

- ① 言葉や表現を説明する時に、辞書や参考書に頼らず
自分の語感をベースにその意味、用法を追究する方法を体験してみる。

② ①の方法で求めたものを場面設定された複数の例文によって表現してみる。

③ 対象者の言語的、文化的背景、生活環境に合わせた説明、ということ意識してみる。

■ 授業内容

二つの課題をグループで話し合い、その後全体で意見を出し合ってまとめる。

課題1 「すぐ」と「さっそく」の違いを考える。

その違いがわかるように例文を各三つずつ提示する。

課題2 「～わけにはいかない」の意味を考える。

「明日は会議があるから、会社を休むわけにはいかない」という例文の持つ文化的な背景について考える。

■ 反省

・途中宮島がアドバイスを入れながら、グループに分かれて話し合いを進めてもらった。

難しい課題だったが、狙いであった「母語話者なら無意識に理解していることを意識化し、具体化する」ということは、体験してもらえたと思う。(個人差はあったが・・・)

・課題1はもっとシンプルなものにした方が良かった。(例:「助ける」と「手伝う」、「うれしい」と「楽しい」など)話し合いに時間がかかりすぎて焦点がぼけ、課題2の時間も足りなくなった。

・課題2は文化的な背景を考慮すべき表現の例として出したが、れはよく理解してもらえ、興味を持ってもらえたと思う。

○講義実施日:2009年11月28日(土)

教え方実践編 Workshop

国語文法ではない外国語としての日本語文法〈2〉:報告

講師 齋藤 美幸

1.初級文型を使う場面を考える(演習)

「～てください」「～たほうがいいです」「～たことがあります」

「受け身」「使役」など

2.話の広がるテーマ探し(演習)

「好きなもの」「家族」「仕事」

「毎日の生活」「故郷」「メディア」「健康」「自然 環境」「愛と友情」

「お金」などをトピックにした場合、初級文型のどれとどれが使えるのか

3.授業のネタ探しのヒント紹介

テレビのトーク番組、新聞、ブログ、雑誌、広告など

4. 絵カードを使ったトレーニングの方法紹介

○講義実施日:2009年12月5日(土)

学習者の身になって考える ―直接法で学ぶ韓国語― :報告

講師 李 和静

内容:

⇒ 授業の前半は、日本語を全く入れず韓国語のみでのやり取りで場面・内容を推測、授業の後半に日本語の説明を入れ、内容の再確認&韓国人学習者の特性を指摘。

1.1 限目「挨拶の基本; 韓国式受け答えの規則 ・ 自己紹介+相手への聞き方」

- ・日本と韓国、両方同じ場面で交わす基本の挨拶であるが、その内容や形式の差により、受け答えの差も出ることを確認→ 日本語の韓国人学習者が間違え易いポイント伝授
- ・両方に馴染みの国名・人名を例に挙げ、同じ外来語(英語)ながら発音の差を認識

1.2 限目「体の各部の名称+“痛いです”の表現 ・ 関係する病院の聞き方」

- ・韓国語の多様な母音・子音組み合わせに触れ、慣れない発音にぶつかる緊張を実感(簡単であるが、緊急の際には役に立つ最低限の表現「～が痛い」とのセットを学習)
- ・痛い部位+病院の診療科(表面的には漢字に鈍感だが、音・訓読みも有りの韓国認識)

1.3 限目「数字; 韓国式時計(基数/序数)読み方 ・ 建物の階数の言い方」

- ・2. から繋ぎ、病院の診療科の所在を「何階」で聞ける(基本数字、いち・に・さん利用)
- ・日本語と同じく、基数と共に序数(ひ・ふ・み・…)も使われているが、その使用場面は日本と又別で有り得る例を身近な時計を利用(時・分の言い方)練習+現場で教えながらの体験に基づいた質疑応答をもって終了。

○講義実施日:2009年12月12日(土)

どんな人にどんな指導をしたらいい?:報告

講師 :筒井由美子

1. 「授業」はプレゼンテーション

- ☆ 授業に必要な要素はプレゼンテーションマインドである、ということ考えた場合、最も重

要なものは「お客さん」つまり「学習者」である。

- ☆ プレゼンテーションする人(プレゼンター)が考えるべきことは、「学習者にとって有意義かどうか」である。
- ☆ アリストテレスの、「人を説得するために必要な3要素」
 - ①「ロゴス」=論理 ②「パトス」=情熱
 - ③「エートス」=相互の関係すなわち誰が話すか。

ただし・・・外国語の授業がプレゼンテーションと決定的に違う点は

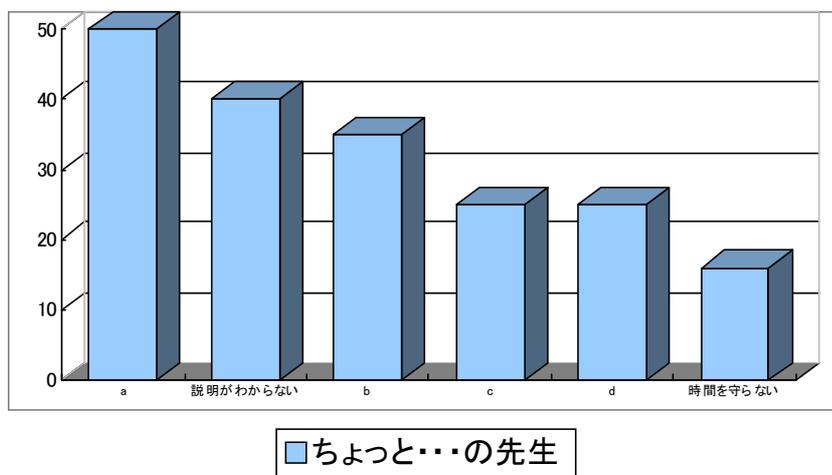
話す人はだれ?⇒学生 話させる人はだれ?⇒教師

したがって、外国語の教師が考えるべきことは⇒学習者にいかに話させるか。

2. どんな先生がいや?

※下はある英会話学校の受講生たちに意見を聞いてまとめたものです(筒井・2007年)

a=先生が話す時間が多い b=自分の意見ばかり c=決めつける言い方をする
d=話が合わない

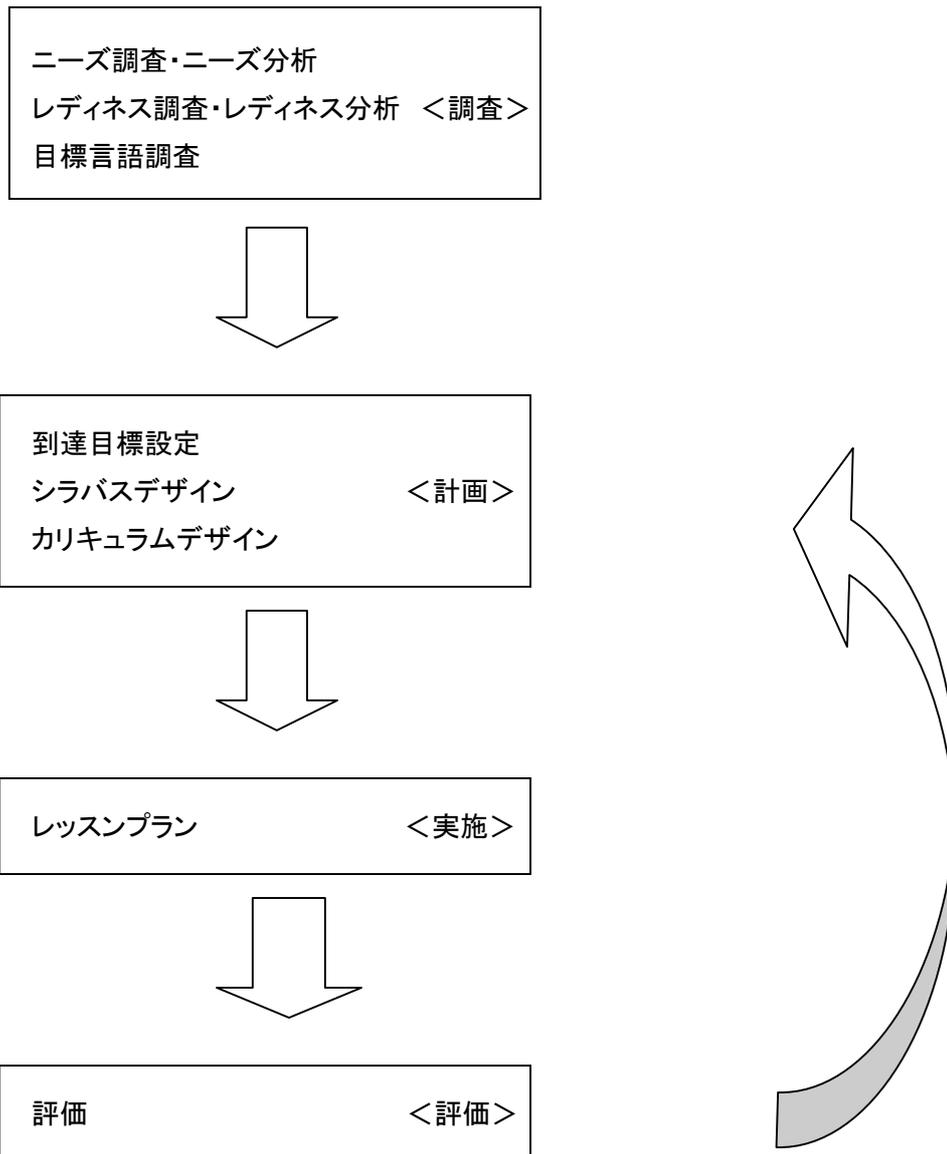


3. 「授業」をデザインする

「学習者」を前にして、これから日本語を教えるというとき、考えなければならないこと

- 何のために勉強するか
- いつまで勉強するか
- 今の日本語レベルはどのくらいか
- ：

※これらをまとめると、下記「コースデザイン」の要素となる。



- ① 一つの授業は、グランドデザインに基づいている。
- ② グランドデザインに責任を持つのは教師である。
- ③ 最後のコースの評価を行い、改善を進める。

4. 聞く技術

心しておくこと

1. だれもが自分の話をしたい。
 - ・学生も、基本的には先生の話を知りたいとは思っていない。
2. だれもが興味のない話は聞きたくない。
 - ・自分が興味あるだけ、相手は興味がないかもしれない。
3. だれもが聞くより話すほうが好き。

・学習者を聞く立場に置いていないかどうか。

スキル

1. 「うなづき」と「あいづち」

・相手に話す意欲を与えるために、こちらが聞いているということ、興味をもっているということ、うなづきとあいづちで伝える。

2. 「オウム返し」

・相手が言ったことを軽く繰り返して言うことで、さらに発話を促すことが出来る。学習者の誤用訂正にも使える。

3. 「オープン・クエスチョン(開いた質問)」と「クローズド・クエスチョン(閉じた質問)」の併用

・イエス、ノーで答えられるクローズド・クエスチョン、説明を要するオープン・クエスチョンを上手く併用し、相手の話を促す。

4. 相手を受け入れ、共感する

☆ 基本は「相手に興味をもつこと」

5. 授業の工夫

① 文型導入・運用練習(初級)

- ・ 初対面初日授業(日本語学習歴なし)
- ・ 初級文型導入・運用練習

② 「話す」授業(初級・中上級)

- ・ 「イントロダクション・トレーニング」
- ・ 「その場で話す 1 分間スピーチ」
- ・ 「心理テスト」
- ・ 「オプチとペシミ」

※上記のうち、「心理テスト」を、教材を用いてデモンストレーションを行った。

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

●外国人から見た日本語の特徴・教える喜び 講師:ジャン・E・プレゲンス

〈感想〉

・外国人から見た日本語についてのお話は本当にためになりました。インプットに限りはあるがアウトプットには限りがないというのが心に残りました。外国人から見た日本語の特徴が聞けて良かったです。

・美しい日本語を指導すべきである。子供たちに意識的に文法を教えても意味はない、自然に身に付くものである。子供には限界はない。褒めることの重要性など、我が意を得たりの講義内容でした。

●**教え方実践編 Workshop コミュニケーション能力 一人間関係作りを促す教室活動一**

講師: 萩原秀樹

〈感想〉

- ・外国人を教える上で様々に気付かされたことが多い学びの時間となりました。
日本人・外国人と関係なく、人と人のかかわり方が大切なんだと改めて思いました。役に立ちます。アクションが多かったので時間が早く過ぎました。
- ・人間関係作りの大切は日常的に役に立つものなので非常に参考になりました。小道具の使い方も役に立つので有難いです。

●**教え方実践編 Workshop 国語文法ではない外国語としての日本語文法 〈1〉**

講師 齋藤 美幸

〈感想〉

- ・参考になるクラスで使えるものがたくさんありました。聴くだけでなく質問しやすい環境を作ってくださったのでありがたかったです。
- ・対象となる初級学習者が来たらすぐに応用できるヒントをいただいたので、役に立てることができると思います。

●**子どもたちが楽しく日本語を学ぶために 一大人と子どもの教え方の違いは—**

講師 井上 恵子

〈感想〉

- ・様々なワークを体験でき子供の立場になってみることで、子どもと大人の教え方の違いを実感できました。
- ・配布資料の一つ一つが工夫次第で入門期から様々な日本語習得の場面で使用できることを理解できた。千葉県教育委員会の外国人児童受け入れの体制の手厚さに驚きました。

●**教え方実践編 漢字の指導方法 Workshop 一漢字はおもしろい！漢字は便利！—**

講師 神本令子

〈感想〉

- ・イメージして漢字を教えると覚えやすいことが身に持ってわかりました。漢字の整理の仕方もやくわかり、役に立つ情報がいっぱいでした。
- ・実際に漢字を教えるときに、難しい、面倒くさいと思われないような工夫が必要だと改めて実感しました。

●**教え方実践編 発音指導方法 Workshop -日本語らしいリズムとイントネーションで！-**

講師 喜多民子

〈感想〉

- ・自分が無意識で話している言葉の発音を意識してでき、様々な練習方法を学ぶことが

できました。講義の内容を参考に指導していこうと思います。

- ・飽きのない授業でとても役に立ちました。発音は教える上で難しい事柄もありますが、具体的に発音の治し方を教えていただいたので、すぐに活用してみようと思います。

●教え方実践編 表現指導方法 Workshop

講師 宮島京子

〈感想〉

- ・ことばの意味の使い方をこのような形で考えることがなかつたので、とても新鮮で目を開かれる思いがした。外国人に聞かれることが多いのですが、ここまで深くつきつめて考えることがなかつたので、非常にためになった。
- ・何人かの人との Brain Storming は非常に有意義であった。一つの文型に対してより多くの学習者にふさわしい例文を作る大変さを痛感しました。

●教え方実践編 Workshop 国語文法ではない外国語としての日本語文法 〈2〉

講師 齋藤 美幸

〈感想〉

- ・すぐ使える題材がたくさんあって嬉しかったです。文型を实际使う場面や状況設定が具体的に考えられたので、コミュニケーションをとりつつ、楽しく学習者の方に学んでもらえると思いました。
- ・講義の内容がボランティアにすぐに生かせるものが多く、今回も是非次の会で使ってみようと思います。とても役に立ち、ありがたく思っています。

●学習者の身になって考える —直接法で学ぶ韓国語—

講師 李 和静

〈感想〉

- ・学習者の立場に立ってボランティアとしてどのように外国の方々に接したらいいかという振り返り、反省の良い機会になりました。
- ・学習者の立場に立って見ることで新しい発見がありました。
- ・教わる楽しみを味わうことができました。自分が教えているときにこんなに楽しくやっているのか反省もさせられました。

●どんな人にどんな指導をしたらいい？ : 報告

講師 : 筒井由美子

〈感想〉

- ・実体験からのエピソードは説得力があると思いました。
- ・現場で使える心構え等を再確認させていただきました。

- ・授業の組み立てはシラバスから各レッスンでやる準備までもう一度もっと考えなければいけないと反省する点が多々でした。自分の目指すところも見えてきたし、解決もできるように思います。

●10回の講座を終えての感想

- ・すぐ使える知識、技術が満載で役に立った。
- ・実践的で即実際に使えるヒントを貰えた。
- ・表現指導法では例文の大切さを痛感しもう一度レッスンの準備の仕方を考える良いきっかけになった。
- ・グループワークがあったので他のボランティアの方々とも話す機会も多く休み時間もくつろげた。
- ・先生が毎日変わるのが良かった。
- ・人の心をつかみ、共に楽しい授業にするには、豊かな内容とエンターティナーの要素も大切。
- ・直接法で学ぶ韓国語は、日本語が話せない外国人がどのように感じるか自分も体験出来て良かった。
- ・実際の現場の先生の体験談や失敗談が興味深かった。
- ・各先生方の講義が個性的で、3時間が短く感じられ、改めて日本語について考え直すことが出来た。
- ・今までの経験の確認と振り返りができ、大いに反省することが出来た。

② 実施主体からの研修内容結果評価

アンケートの結果からみて、受講者のニーズに合った講義内容がほぼ出来た。

当校の先生方がこの講座を支えてくださった。講座が終了ごとに、担当講師に受講生の様子、講義の反応など細かく連絡をしあっていたので、受講生に合わせた講義ができたと思う。また先生方が技能別に教授できる技能も十分もっているのも、受講生を楽しませた内容だったとアンケートからも伺うことができる。また、コーディネーターが10回の講座に受講生と一緒に入り、講師と受講生の間で取りまとめを行い、受講しやすい雰囲気作りを心がけてくれたことで、10回の講座を一度も休まず通った受講生が多かった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

台東区の行政とともに協力体制を築き、ボランティアグループの活動の手助けをしていきたい。たとえば台東区で活動しているボランティアグループの勉強会やカリキュラム作成等のアドバイスができる場を設けたい。また、日本語コーディネーターの育成も目指す。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

日本語指導者養成講座とは、かなりリンクするところもあり、現状把握とスキルアップの両面を一挙に習得出来る良いチャンスになるのではないかと感じた。

② 研修後の人材活用

この研修を通じてボランティアをまとめる日本語コーディネーターの育成をはかることが出来ると実感した。このコーディネーターを育成することで、外国人学習者にとってのより良いカリキュラム作成とパートナー派遣が実現可能になるだろう。

(12) 今後の課題

日本語学校とボランティアでは、スタンスの違いこそあれ日本語教育という大きな枠組みの中では協力可能である。日本語学校のスキルや教授法は、ボランティアにとっても必要なものをたくさん含んでおり、相互協力していくことでそれぞれの日本語教育にプラスになるであろう。その2つの相互理解がこれからの課題である。

また、台東区の外国人に日本語を指導する人材として理解をしていただくために行政とボランティアの相互理解も必要である。